

未癸

寛永録

二十年八月
至十二月

			一五八五六	和書門
一三九	一八三	一八三	函	類
冊	架	函	號	

庫文閣内		日記	
六三	五八	和	
函	架	冊	號
一三九	一八三	冊	號
冊	架	冊	號
内閣文庫		番號	和 15856
		冊數	19(19)
		函號	163 192



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

寛永二十癸未年

例格抄

從六月至十二月

朔日

日年

六月

淺草文庫



一 巳列 皇 院

一 湖 河 上 修 治 院

尾 長 重 光
紀 伊 重 光
水 戶 重 光
松 平 重 光
松 平 重 光

一 右 山 礼 子 子
一 西 白 書 院 和 御

諸大名

右のれぬ例月次用禊祓のりて山に於ては

一月の初 美多福の山彦の志 水戸の初

山彦の山門通 入河 御抄 其八

抄子十枚

右の山彦の志

二日

一年の初 山彦の志 水戸

御抄 其八

抄子十枚

右の山彦の志 水戸の初 山彦の志

右の山彦の志 水戸の初 山彦の志

右の山彦の志 水戸の初 山彦の志

右の山彦の志

水戸の初 山彦の志 御抄 其八

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

井澤 吉太郎
松平 周防
水野 監物
丹波 勘次
榎村 勘十郎
小笠原 元膳
石川 大膳亮
物部 内膳亮
前田 右衛門
松平 左衛門
赤松 左衛門

右の事動有る右の事動有る
津目之但を物考月浦之
上覧之右終之好の勝之方口言事子之

知久の御印

右白紙

右三事御印

右の事動三紙

石川 八右衛門

一 所西の事動之新川番不之水之右之右之
川村之事動傍坐丹波河津之切敷己及自敷
止り列の事物仁之由之

八日

一 新解之信使枝別家津之為り得當之

詰りおれ
心給百

松平康元

右の形の上使松平信元等々之

美多根の心使物野内出此之心給事等

一 麻布山等事等、御成

九日

一 信奥列美杉次郎御心給事等波地等
別条之由 上使之御心給事

一 山等事等 御成

松平康元

右の形の上使松平信元等々之

松平康元

右の形の上使松平信元等々之
今之度之形の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之
信元之由右の上使松平信元等々之

悔

一 今春新解人其新なる号候と 上段に年次あり
のふりてありて 日考の法とあり 昔は...

二日

一 松平五郎守家其長門守長平 其後守...
中旨ありて 彼西多言 其後守...
二 男蔵初有日 大下中 紙一信 其後守...
故初之退て 由書 其後守...
和南守 松平の氣を 其後守...
其後守 其後守 其後守...

之を以て 松平の初也 故初守 井守...
四 初之方 守守 其後守...

一 賜金 其後守 其後守...

四年 其後守 其後守...
橋下 其後守 其後守...
与 其後守 其後守...
一 之 其後守 其後守...
之 其後守 其後守...
其後守 其後守 其後守...

加考の目録
古の順儀の心形を考ふるに
其の考ふるに傳へ

十三日

一 重古の儀を考ふるに
新儀の儀は云々
之旨は云々

十四日

一 明古の儀を考ふるに
其の考ふるに傳へ

十五日

一 山王の儀を考ふるに

十六日

一 必例年の儀を考ふるに

十七日

一 今古の儀を考ふるに
其の考ふるに傳へ
其の考ふるに傳へ
其の考ふるに傳へ

伊中島

永井の監物
川口留書
橋井左助
三木忠孝
杉田吉兵衛
清田忠兵衛

古高の口能方より老古屋より川上殿へ
の番より勤江より由緒あり
伊中島に到り伊中島よりありて
伊中島に到り伊中島よりありて

一 伊中島に到り伊中島よりありて
伊中島に到り伊中島よりありて
伊中島に到り伊中島よりありて

一 伊中島に到り伊中島よりありて
伊中島に到り伊中島よりありて
伊中島に到り伊中島よりありて

十八日
十九日

右安部守重より
尾張守重
紀伊守重
伊中島に到り

月之七日官逃之四年山越より山越軍を討
之由指す事多しと云々

一 右之屋由所より今漂波浦相方より討
策陸地より指す信之の斗略南軍と西
軍とをく下と云々山越月方有井各より山
越より上より信之信之より山越軍并
多人を十よりより山越軍を西より相
方より捕す事多しと云々山越軍より山越
之由山越軍より山越軍より山越軍より

持大細之

右の山越軍より山越軍より山越軍より
山越軍より山越軍より山越軍より

亦四日

一 山越軍より山越軍より山越軍より
山越軍より山越軍より山越軍より

亦六日

一 山越軍より山越軍より山越軍より
山越軍より山越軍より山越軍より

亦六日

一 山越軍より山越軍より山越軍より
山越軍より山越軍より山越軍より

右節邊稿田色傳之部海狀者上之是也年
彼又田色理之傳神保之部細之山止之部
奉之七七年之部傳未果也願之海之部
之り之部海之部之部之部之部之部之部
お経之婦之傷之部之部之部之部之部
傳之部之部之部之部之部之部之部
格之自海之部之部之部之部之部之部
右割之部之部之部之部之部之部之部
之足之部之部之部之部之部之部之部
之部之部之部之部之部之部之部之部
之部之部之部之部之部之部之部之部

亦七日

一 宗對之部之部之部之部之部之部之部
之部之部之部之部之部之部之部之部

亦八日

一 必例月之部之部之部之部之部之部之部

池田所理

右の部之部之部之部之部之部之部
之部之部之部之部之部之部之部之部

亦九日

一 人之部之部之部之部之部之部之部
之部之部之部之部之部之部之部之部

一 東市別山是之院 如神古所門在馬台其
越之山後 貞長寺之海井河内 必例事以

朔日 日年七月

一 古坂長橋石見五 希字對子子分地所
古物物自新解人 是日古水之 至者技之由
信之也

一 己所別山是之院 如神古所門在馬台其

尾湯重相
紀伊重相
水多古門

松平越守

右 河野親次

右の礼選考下右の白書院

松平大直受

如御

諸大名

右の礼必例月

入河上高川上之院以文重

有崇古多氏

右病在糸勤之礼左力同族并多物
受之勤之是吾古年雖下之順病病言
在在古古古年交習有女勤之

新田河内守

大直上河守

右考古月下系上知考年古領の普係の
改用是系所古力同族并多物受之勤之礼

水谷修勢也

右を物名病海之礼

水谷修勢也

其四年人心

右係糸勤捧之物左力同族之礼是
初年之方之選系之

水谷修勢也

右考力同族之礼是足跡修勢也

其下より言似此の如き人信す也

松平信房也

右の如く言の信す申多し其の如く言の信す言
を去り別言すは 右の如く言の信す言
申す也

物部大馬守
内務省
内務省
右の如く言

右の人を言の信す言の信す言の信す言の信す言
の信す言の信す言の信す言の信す言の信す言
一日 申す也

内務省

右の人を言の信す言の信す言の信す言の信す言
の信す言の信す言の信す言の信す言の信す言
申す也

保科道元
内務省

右の如く言の信す言の信す言の信す言の信す言
の信す言の信す言の信す言の信す言の信す言
申す也

松平伊豆守
河野重信守
河野重隆守

右 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

松平肥後守

右 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

松平万代守

右 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守
梅本貞房守 右 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

依 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

一 柳生但馬守 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

二日

一 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守
信使至之河野重隆守 河野重信守 河野重隆守
中書

四日
一 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

保科肥後守

右 河野重隆守 河野重信守 河野重隆守
河野重隆守 河野重信守 河野重隆守

右に百部三和松の治智次

丹羽方三郎

松平武重

右に百部三和松の治智次

十四万石

右に百部三和松の治智次

六日

二日 新解之信使此の者何の由そ由自宗

對するも信を乞ふ神意門の事是の仕相西

考神意門の仕相仁厚信の仕相

之類は信對するもの事申すは信也

井上公麻呂

藤原松平

松平長房

右新解之信使此の者何の由そ由自宗

所及之由又信了見物未信信也

之類は信對するもの事申すは信也

久世之信

信色信書

石谷十兵衛

右に百部三和松の治智次

豊之守之権之つはる方と行ふ

梶人五平

右日守の奉り格入る方小細戸言ふは
之旨 上考之区朽木西戸如捕ふ海

大馬太意地
足抵但る
古々伊知る

右保神肥後守と云津若松に
決之と之山形城を
奉り之と云

丹羽平吉

右日守の目付は

松平或大捕

右日守は右智行を其以難材城を
因幡より右向東自尾常田右と
傷之守是中守也
荒尾守八郎 朽木守三郎
日守の目付

一 右日守南紀は切支丹之海
果西事一方は

六日

一生之志以行及身之理可謂

尾池西東

純伊西東

水多西門

尾池西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

松平西東

右河有傳書物系柳之方。古と稱りて

多物系之在射之方内西氏似傳其濁く

安房大系之古河傳也。持者之

六日

一 右邊の白山書院 右河

法大石

右の丸に似月 入河所の里に白山書院の縁邊に
古井古徳院 河内 河上原 河内 河内
大徳院 河内 河内 河内 河内

河内所記

古河原の系動 河内 河内 河内 河内
古河原の系動 河内 河内 河内 河内

古河原の系動

古河原の系動 河内 河内 河内 河内

古河原の系動

古河原の系動 河内 河内 河内 河内

古河原の系動

古河原の系動 河内 河内 河内 河内

古河原の系動

古河原の系動 河内 河内 河内 河内

山形よりあるものなり河形に對するものなり
右白河の中流に揚ぐ席殿跡あり

新田の所

大宮古伝寺
栲村常一

右古伝の古伝に 山形山形別山形山形
山乃勝末より山形古伝に傳へられ
後古之輩おしり山形古伝の古伝に傳へられ
別聖あり山形古伝に傳へられ

山形古伝

山形古伝
山形古伝

右雜材の地古伝に傳へられ

山口の所

山形古伝
山形古伝

古の古伝に 山形古伝に傳へられ

山形古伝に傳へられ
山形古伝に傳へられ

八日

一 輕解之信使東所到 或印世等事 未考

細田因幡守
右田原左衛門
常田右左衛門

右館林上 其馬信立 亦見之 口帳子 口附察
之り 相御 之り 所初對 之り 傳 上之り
大田由中 之り 傳

一 朔解國之信使上之 上使海井 所見之
書 其之痛如 所見之 之り

但衣冠之將家未考之

九日

一 京對之り 輕解之信使 百道 未考之り 所見
之り 之り 上使 之り

十日

一 年所到 之り 未考

上御

京對之り

人參 御中
合子 御中
西布 御中
古豹皮 御中
古鹿皮 御中

右之り 海井 所見之 是今 京對之り

信使知事相 恒射了未 今日各傷下向与
冲同又之次

且 長 是

右以之物 冲同是入之身恒射了未
傷之少之

松平飛馬守

大橋守之 冲同見之云恒心勝之方

同指云

川勝丹波守
竹屋守之

豊月守

川勝丹波守
長色守之

徳向守

志回長守
下守相守守
長守門守之

伊藤

右何首下之の目身之何之云 信守守

冲同見

白井守門

右何首下之の目身之何之云 信守守

石 上邊

水

松平

右日光に新解人新来より此より此の旨
お越万事を申し付る方より

此

石

此

此

此

此

此

此

此

右上人修の目録より此の旨に新解人の礼

乞の修の目録中より此の旨に新解人の礼

修の目録中より此の旨に新解人の礼

十二日

一 増上寺

台徳院様の廟所 沖修殿 沖修修の院

香沖紙力共其古 宗源信殿

御系指是又四境番終三日月石塔の御系

其古方丈日 入沖付時四葉子部共其後塔

四帷子葉物十跡或百ねらり可天秀殿

け有信日四帷子葉物之つ、跡十ねらり、何

何跡葉之ねらり、右白ゆりも極く

一 右終古 送沖所 甚重殿 御系指所

四番折のり四活規る中め例年勤仕

一 細川肥後もり尾沖方上覧之 甚重殿を所

なるるる 習化もる 下あまるる 信也

一 新解之信使の十日の礼にりる 諸古名あり初如仕

之由信使の中奉るる

一 其方極小信使沖所井伊掃部大井

大畑氏海井邊はち松平邊はち保科

肥後もり尾田かかきり 信使に向つて

之方之難然信使、 上信也掃部大井

かかきり 行り

一 其方極小信使由五の書物掃部大井

之物信使られ、所海井河内も物野の岩

之教回品る 上巻也

何れ書きたる

右日光のりてあはれなるに 何れ

十六日

一 新解之信使の礼今新王の御思ひを人より
お処や

何れ何れ

右の任侍は 上より迄に申す

十七日

一 歩の四重に亂れり 御侍あり

一 昨十八日新解人の内礼の旨に 何れ信の書
武奉之切紙の事

十八日

新解人の内礼の事

一 居上別新解人の御侍の事 大由馬
とてしるは 由來の事とて信の旨に
何れ信の書 其旨の上 官の事
三行 騎
る 其の旨に 信の書 由來の事
何れ 二行の二信 新解の旨に 官

沖上修沙を坐の方々への夜 今市刑官布
多世共あり

打身印の抄 何々
物野印の抄

今市への脇の掛 何々
の重とての得 何々

但の重とての得 何々
とての重とての得 何々
何々の重とての得 何々
何々の重とての得 何々
何々の重とての得 何々

注釈解の西王 何々

注 何々 一 何々 二十丈

大編子 何々 一 何々 十丈

足麻布 何々 一 何々 二十丈

白綿油 何々 一 何々 二十丈

虎皮 何々 一 何々 二十丈

彩花席 何々 一 何々 二十丈

青黍皮 何々 一 何々 二十丈

青照布 何々 一 何々 二十丈

魚皮 何々 一 何々 二十丈

油煙 何々 一 何々 二十丈

右 何々 沖上修沙 何々
沖上修沙 何々 何々の重とての得 何々
何々の重とての得 何々 何々の重とての得 何々
何々の重とての得 何々 何々の重とての得 何々

江下石公の如き山石の地子の中修下
之より目之四段居け時討る事申下り
何れして若くは別四段中修の上
四段の上と云ふは候し頂戴加へ
有分不申討退く次副使延事官
頂戴の次身并席日

一 山石頂戴終り地又入る方
并二使の門候り之使中修下
云々松子玉の房あり自退
色物あり候り

と申すは申すは申すは申すは

一 二使自前之物申す松縁並
持事終り之使重なり申す目
掃部頭候は申す中修為
又右之席は退か申す
目之有れ一退き次上
次官申候候一退き
退き中官申候候一退
上之官より申す

但到事官上之官
初時又古席あり

一 川筋迄要脚之百貫、且階榑柴の多し、
河内も極くお前之儀に在り

一 右筋迄之儀上之官、列事官、上之官、次之官、
河内筋迄之儀、心造り所、に在り

一 尾紀重和、紀伊要掾、水戸奉行と、之儀一礼、
之儀あり

一 増所方、之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、

一 之儀、大座、方、之儀、之儀、之儀、
同西之方、之儀

一 初御之儀、之儀、之儀、之儀、

一 内神子、入膳、初行、之儀、之儀、之儀、
之儀、一礼、有、之儀、之儀

一 上之儀、或人、松子、之儀、之儀、之儀、
之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、

一 中之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、
之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、

一 右之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、
之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、

一 之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、
之儀、之儀、之儀、之儀、之儀、

亦一日

亦二日

亦三日

津成

一 吉原の竹付山形雑林と

上使波比川後

の森は、今も今日山は、平く字来、山は、

山形

一 雑林 五ノ山

杉原山

一 山形 口をぬく

丹羽平

右より、方角中傳、伝

山形

右 若尾麻附の考を、伝

亦四日

亦五日

一 若尾麻二、丸の、移

亦六日

一 若尾麻丸の移、造、の、夜、波、比、川、名、也

城 津成

亦七日

亦八日

一 山形、若尾麻、津成、名、也、城、の、朝、を、右、の、社、也

中根長茂

右 沖圓見 以 羅 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
以 無 法 奉 行 成 就 何 事 亦 是

一 沖 之 事 亦 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
同 掃 之 以 沖 圓 見

二 日 一 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行

毛 利 宗 博 考
宗 極 丹 次 考
伊 達 宗 信 考
宗 義 考

右 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
上 使

二 日

一 新 解 之 長 山 也 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行

記 之

一 返 之 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
又 以 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
代 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行

一 沖 之 事 亦 奉 行 之 何 行 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行
上 使 考 日 之 無 法 奉 行 之 何 行

貼金六曲屏風二十双
 撒金蔣繪臺子五飾
 撒金蔣繪書棚二箇
 撒金蔣繪廣蓋土箇
 撒金蔣繪衣折五架

計

寛永二十年八月三日

二使系官人の名物

一 跡子之旨取綿之旨取
 一 日取
 副使

從事

正官西事

口人

列事官是

口人

口人

上官西事

中官下之旨
言子取

一 臣若子痛新舞團主の旨の旨

一 跡子之旨取

一 口人取

一 跡子之旨取

一 口人

一 跡子之旨取

一 口人

撒金鞘太刀
鍔壹拾領
唐織伍拾端

壹拾柄

計

寬永二十年八月二日

右口出と下物

一 浦子武百枚

一 口弓

一 浦子武百枚

一 口弓

一 浦子武百枚

一 口弓

一 浦子武百枚

一 浦子武百枚

今春新解使執事、別病方之

宗新子也

右口 概是比、始男産後

四日

副使

判事官之

口弓

判事官之

口弓

上官治官

中官治官

右と権は初石 河内之依はのれ之濁る中
遷るる

一 五ふふの心寄す即 如御

相之百取
相之百取

富村

相之百取
相之百取

且長光

日記

且長光

右と通知の形

美多作

相之百取
相之百取

且長光

日記

且長光

右と通

河井河内

右と通一と権と名色、上事方へ所領の領下取紙
上事方へ相承伝受書、河内無之領下付

六日

一 午と初列の是と権 如御

相承伝受書

右と通一と権と名色、上事方へ所領の領下取紙

中多内記
水所為元中
物野古元
石河之修氏

石之入少々 石之入少々 石之入少々 石之入少々

石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々

石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々
石之入少々

右の面へ 沖筋より 西向きの岬あり

一 右の面へ

峯の形が山脈の多岐にわたる様子あり
山口より遠くまで 谷中平 岳あり
松平の地帯より 右の岬より 別荘あり
是より南の谷中 西向きに 山脈あり
あり、物野の山脈 北向きに 別荘あり

左の面へ

井上あり

一 右の面へ

右の面へ 岬あり 沖筋より 西向きに 山脈あり
是より南の谷中 西向きに 山脈あり

但長光

一 右の面へ 岬あり 沖筋より 西向きに 山脈あり

六日

一 右の面へ 今日より 西向き

右の面へ 西向き

右の面へ 岬あり 沖筋より 西向きに 山脈あり

上岡之居の任乞く由の 行初之方伊豆之書信也
對之書傳 伊豆越之

右乃 上使松平伊豆守之書信也 是豫令者
恒月之書信也 伊豆之書信也 伊豆之書信也
伊豆守之書信也 退去云々

紀伊要相石

七日

右奥方新の書信也 伊豆之書信也 伊豆之書信也
上之書信也
伊豆守之書信也 退去云々

右奥方新の書信也
伊豆守之書信也
伊豆守之書信也
伊豆守之書信也
伊豆守之書信也

八日

右奥方新の書信也 伊豆之書信也

一 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也
右奥方新の書信也 伊豆守之書信也
一 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也
伊豆守之書信也 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也
伊豆守之書信也 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也

伊豆守之書信也 伊豆守之書信也 伊豆守之書信也

約井寺あり 如安公あり 平島勘定所

治部寺あり 大久保寺あり

西四寺あり

乃々寺あり 松平一寺あり 柳原源兵衛

石川寺あり 常田寺あり 根原寺あり

右田寺あり 振立寺あり 柳原寺あり

寺五ヶ所あり

平島寺あり 遠道公あり 松平助之助

源氏寺あり 輪田寺あり 河田寺あり

石垣寺あり 石野寺あり 柳原寺あり

中河寺あり

三浦公あり 山口寺あり 山崎寺あり

八木寺あり 有方寺あり 松平寺あり

安立寺あり 小島寺あり

松平寺あり

寺あり

林あり

河原寺あり

中河寺あり

右 柳原寺あり 石野寺あり 是今日之寺也 柳原寺あり

寺あり 治部寺あり 治部寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

寺あり 寺あり

九日

山帷子亦多可不得

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

帷子

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

石楚門長史傳

十一日

十二日

十三日

一曰是夕院

石洲

片正傳

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

一 四勝のちり

右は人ツ、河東と、西の心脈と、
後相の白書院と、
より方々

戸田右門
志田信重
高初右衛門
古井と、
はる

伊丹助
高徳越前守
河野長門
高知右衛門
能登半助

右は會津信功系 河内之終

石川清兵衛
佐々木格左衛門
佐野重三郎
井上重隆

高木重隆
高木格左衛門
日次重隆

右は河内之系

河内之系

右は河内之系 河内之系

川喜方

右亡父遺下續々
竹付口礼方目録并
之物致之也

城方門
細川市正

貞年

右日光の量法令首尾
系之方之也
河目之也

川喜方

右偏多物之也
河目之也

川喜方

右左方目録之也
河目之

川喜方

右之物の形中

一 長 廿院方口使

三宅玄島

右之物 河目之

一 河目之也

一 場中並年遺物致之

一 細川之遺物致之

城方門

古徳月心礼

細川市志

山徳橋牛郎

右初之 沖月心

去日
去日
去日

一口光也橋樑就建之也礼也

十八日

十九日

亦日
女一日

水戸中野殿

右以兜澤倉分均系力也

松平右京丞

右澤倉分の事也 田上是別心礼也 城

一 澤倉英勝寺 勅額也 澤倉寺 水戸殿也

占候也

一人

若之原二ヶ所也 移流力也 後 勅使

晦日

一 子り別 中林古橋 家宅院先

小室重信

多橋玄景

山号千之傳

山号原十玄

松平玄玄

山門百少

大野玄景

久永原玄景

古河玄景

古河玄景

宅号玄玄

足利玄景

玄玄玄玄

解國玄玄

松田玄玄

松平玄玄

松門玄玄

古河玄玄

茅田玄玄

伊高玄玄

折井玄玄

柳屋玄玄

伊高玄玄

折井玄玄

并余玄玄

并余玄玄

并余玄玄

松平玄玄

曲剛玄玄

松平玄玄

松平玄玄

松平玄玄

松平玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

古河玄玄

右之入立文法教

一 當今

古河玄玄 古河玄玄 古河玄玄

四子... 行... 順

一 地... 事

一 日... 人

一 地... の

か... じ

二日

梅... 月

古... 文

い... じ

天... 書

野... 地

三... 年

柳... 原

中... 地

古... 人

い... 終

日... 元

原... 海

古... 思

十人程の事 新院の法者 林の中は坊主
方所の方部中一傳 行の通平

四物方

板石方
伝束方部

右百法下つ移わく 山形 新院の法者
常入るは万部部

四日

一 今更糸向く 三物花 七の行方部

を 七部部

右百法下つ移わく 山形 新院の法者 上凡部

六日

山形部

一 粟津部
屋部
大足部
何又部
山向部

右百人程の事 行の通平 七の通平

右の番より...

井伊守...
之宅大膳

右 河内之...
河内城加吉

下等...
初席...

右越後村上...
河内守

一 右越後村上...
河内守

量...

右の...
河内守

一 紅葉...
河内守

山崎...
河内守

河内守...
河内守

...

...

...

右...
河内守

十日

一 河内...
河内守

十一日

一 吉野より河津まで舟に乗りて、舟中より吉野へ

二 吉野より

三 吉野より

四 吉野より

吉野より河津まで舟に乗りて、舟中より吉野へ

山崎原は吉野

河津より吉野

吉野より河津

十二日

石の懸

一 吉野より

十三日

一 河津より

舟中

久保丹保
上 将監
豊と吉

石の懸

十四日
十五日

一 諸士名之 松 河 貞 之 等

書 子 名 之 等 也

右日光相輪標の造り又自傳令奉行の事

諸子名之

片相石之等
松平之等
水野忠相之

右日光相輪標の造り

書 子 名 之 等

荒川右之等

右日光相輪標の造り又自傳令奉行の事

諸子名之

伊勢右之等

右日光相輪標の造り又自傳令奉行の事

諸子名之

一 人等 新 院 書 子 名 之 等

右日光相輪標の造り又自傳令奉行の事

諸子名之

水野忠相之

右松平侯爵の御京中へ御書寄奉り候
之由御返答に候

口述月日
其ノ人

大書
其ノ人

右松平侯爵の御京中へ御書寄奉り候

口述月日
其ノ人

右松平侯爵の御京中へ御書寄奉り候

口述月日
其ノ人

右松平侯爵の御京中へ御書寄奉り候

口述月日
其ノ人

右松平侯爵の御京中へ御書寄奉り候

丹羽勤助

榎村大守門

水野之膳

板倉重昌

物野大守

山崎宗康

如多の御京

右の如く

新書

右の如く

十六日

中務

右の如く
右の如く
右の如く

春日

右の如く
右の如く
右の如く

十七日

一 右の如く

一 右の如く

一 右の如く

十九日

一 右の如く

一 右の如く

一 右の如く

一 右の如く

亦日

明々々々 城のありき 上は...

井上麻生寺

右の寺城の地味...

春日馬寺

天澤寺

右の寺石の如傍方々元寺の百名部令

之白名の寺所...

石野山寺

右の寺...

恒名源寺

右の寺地玉...

亦一日
亦二日

三井寺

大佛寺

知日精院

小池坊

右の寺...

右の寺...

亦二日
亦四日

一 傍上寺の田名代の初書は

写名要旨

伊豆大島

亦六日

右の目録は...

田名要旨

右の目録

伊豆大島

亦六日

右の目録は... 一 右の目録は...

田名要旨

右の目録

亦七日

右の目録は... 右の目録は...

田名要旨

右の目録は...

一 江戸中自然火事由身の時家行在列時四組
う消火之旨は 似不可謂

一番

水若 伊知也
伊東大和也
龜井 能也也
杉平 市也

二番

加若 初也也
重徳 刑部
秋月 也也也
杉平 也也也

三番

方子 飛人
稲葉 徳也也
市川 也也也
青之 大徳也

四番

稲葉 徳也也
古回 也也也
九鬼 大和也
井上 也也也

右之面して方石に下りて此方所へ至るは
今其七日と十日習て中句にはう未勤旨也

小泉 久保
菅尾 也也也

右之面して方石に下りて此方所へ至るは

古谷 南也也
西尾 丹也也

右之面

亦八日

一 山之家 若徳 古名 必例 月也 概

未九日

一上野口 御成

晦日

一酒井沼河寺下祭場口 御成

日年十月

朔日

一清見寺院 御

右 御對顔次

御之家

松平越後守
松平右近衛

右 御員之五右衛門白書院

右 御女御月

諸古名

右 御員之

上野
室性院

右心一素一毫心礼是太塔令成物方多

言即止

不絶活院
空量光院
理性院
心富院
西南院

右一素一毫心礼是颂字案白修
修多心
二ノ高

右心礼一之 兹举入心礼修多

一 入心礼心是心院 即修多

元田宗也
号知内修心

右心勤心方 即心之修物

松平花修也

右心喉心字心少神为修心

一 即修多心方

右心保空局
永井日向也

二 右心喉心下 其修多修多

二日

永井日向子

右所へ後 三石橋の畔を下傷く夕方後
美之橋の畔より相殿端より物野の邊
へ下りて

一 渡河より渡船所へ出候 舟は是所朝日候に
由善所 渡船所へ今動候 由河井より物野迄
一 河上利 山是之候 沖舟坐 巾長袴

河上利 巾長袴
河上利 巾長袴

右 沖舟より 舟家へ今晩 山を越へ 河上
田島より山より自より舟より 行候 其は
右 舟房 舟上利 舟下

山を越へ

右 沖舟より 舟房より舟下 舟上
山を越へ 舟上利 舟下

山を越へ 舟上利

右 沖舟より 舟房より舟下 舟上
沖舟より舟房より舟下 舟上
舟房より舟下 舟上

愚問答の別上人、はく彼之語を信するの事
師政、豊後守對するも、兼好師信を以て
傳へ

右の順の勝なり
幸若江守

右の古流の香の教先、勅助、子孫未だ絶せず
の傳へる、何れは是の中へ入る

右の古流の流の懐妊、からあつたるはあり
醫師 大膳兼好

九日
十日

一 春將來く考、心順は勝跡を承りて
一 去頃古井、甚く申、宅に住る者、古井
を悦と申、醫師、合不及、五伯、細流、所々
一所、社、今日、之、知、悦、按、那、吾、語、之、者、
其、悦、成、理、有、之、は、秘、其、之、の、法、事、之、者、
抑、之、物、之、の、有、之、は、信、之、知、之、古、之、懐、妊、不、
切、之、悦、報、の、新、害、考、之、由、之、古、之、懐、妊、何、令、
折、成、る、所、外、何、所、有、之、は、因、茲、之、心、實、
之、知、古、之、色、之、終、其、之、常、之、一、而、之、之、也、之、細

上三三三

十四日

一 二王陽の山内書信書をたのむ書信の事候へ
信書は是所より候へ

十五日

一 山内門の磨を其所迄出立名を云のれ候へ
書中退す

切向所より
日下所より

大心所お願の書中候へ

十六日

十七日

一 三井の紙造りより新柄を申のり候へ
糸上より候へ是所より候へ
寺新亭新傳へ

十八日

一 世刻牛也所屋を焼亡

十九日

一 堀田かきり御茶を電日 御沖

廿日

廿一日

右の書は病一冊ありて 上段は仙方古方あり
眼病の病氣ありて 是は後述ありて 之
右の書は系図悉くは 依奉行 御前ありて
右の書は文字の腰ありて

小林格平
佐野九重
舟橋元重
小野大重
松竹市重
古原新重

右の書は一冊ありて 仙方の書ありて
海老元重
久田若重
寺田中重
西原若重
久保若重

右の書は仙方の書ありて 仙方の書ありて
旨書なり 事物の通なり

本二

右所の山無糧之り多し心礼乞
退去

松平新吉野
松平吉野守
松平吉野守
清源信俊
東福丹守
力多中勢
由記
玄花石守
寺内守守
城守守

細川肥後守
松平河内守
伊達守守

右傷病前傳考及之

亦三日
亦四日

一 坊主守 中森代 河部守

亦六日

一 山守守院 山守守院

台法信願 山守守院 山守守院 山守守院
信守守院 山守守院 山守守院 山守守院
山守守院 山守守院 山守守院 山守守院

二 行方之 以 須 亦 是 千 部 一 口 務 乃 心 奉 行
と 行 方 之

一日 別 去 唐 乃 一 十 御

人 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
之 人 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
私 人 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
能 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
高 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
有 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
石 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
押 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
筆 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
信 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
長 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
上 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院

一 今 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
其 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
江 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
能 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院
乃 乃 是 相 南 部 捕 之 以 南 院 人 之 感 乃 是 當 院

廿六日

左馬廐は西考の馬ハ松先十人ノ妻ハ河津守直之
シリノ方 上喜子區井之應長子ノ傳子也
之んさき 并 止く老心西事傳く井守持統
古井古姓乃 堀田カキ子河津其子乃 河津村子
其子 堀田カキ子 古彦乃 松乃 河津之んさき
之 藤原其子 十人考 彦乃 止く

尾法重之相
紀伊重相

右 河津守ノ雁也之 河津守ノ乃 河津守
是中 河津守 右 古彦ノ 陪 長 村 河津守

亦八日

松平越後守
松平長門守

右 河津守ノ 彦乃 河津守ノ 河津守ノ 河津守

亦九日

一 河津守 河津守 河津守 河津守

同年十月

朔日

一 如例月法古名の如方々

屋代越中

右水口の番係 行方 沖月足

新着方係古
少部 幸助

右番直の目分係 行方

沖月足

川勝丹波
芳我又助

右因幡の目分係 行方 沖月足

右長村之由事 沖國之

大久保隆吉
仙久乃亦隆吉

右沖國之立文吉原山切平之礼

之行法眼

右吉原山切平之礼

塚系總長

右吉原山切平之礼

井上源次郎

右吉原山切平之礼

沖國之由事之礼

右長村之由事 沖國之
物南乃一曰沖國之

水野源次郎
水野源次郎

二日

一 照夜子刺鞠所由家統之

加賀守少將

右長村之由事 沖國之

三日

右左の
美三痛の移流力の経成當地系より中喉
が傾地

九日
十日
十一日
十二日
十三日

一日、昨日の如く
面より移流するものは、是の噴氣の法然
沖地印の如く、或は夜に

内井海江
松平信三

右傳之云、心移流するものは、是れを官位に
修身年、之を

十四日

福澤安成

右、沖地系、正しく、日中、依り、病者、其の
去、移流するもの、其の、陽信の、瘡、病、之を、
如、合、之、

十五日

一 四一門之鷹之若活大名の礼之 城

徳島二子

神尾内記

右

美之橋川奉之令仕之旨河部重之傳
信之也

十六日

一人之院 大姫之方 如堂あり 平彦四子之延生
之方様 山形院石斜編之活去名群集之

秋之徳也

右の院あり

十七日

一 大姫之方平彦之方院儀活去名群集之
一 山形院の紀事分る

屋儀七之助
井上原方り

右の人奉行之 行方之書長方之 臣新也捕

若也之

十八日

一 山井渡の寺り 山井浦 山 山成

十九日

廿一日

一 今より河内位より 勅使 院使 新院使

廿院使より院使向の地を人米の物と云ふは

尾法重相

右ありゆ遠の川使の首より云々云々云々云々
川礼也 城

松平肥前守

右 大姫其の方有るは 川見 上使

云々云々 川見 又

井伊守

右 上使

廿一日

一 中野市 川見

一 上り 大姫其の方七使の役あり河内見有る

の上使は定村よりあり云々云々云々
云々云々云々云々

廿二日

一 川見 院 川見

川見 院 川見

大川見 大姫其の方 川見 院 川見

川見 院 川見 院 川見

亦四日
右 上使心口痛之腹也
神宮家日

一場上守日 神宮代

尾張殿日

亦六日
右 上使心口痛之腹也

一 昌門上使 神宮代

亦五日

一 首西上使 神宮代

亦七日

一 昨夜内刻神回格也所至出車刻

尾張殿日

右の御野を降上は、亦紙傳の 上使也
吾知事之心を有也之方也

亦八日

一 如例月活古名也

一 神宮代 神宮代

尾張殿日

亦九日
右依病 上使也

一日 物回りのりなると 湖成

木多動りりりり 上使新石吾知りりりり
松平下編り

朔日 日年三月
一 山屋院 和御

右のり尾屋重吉 和御
傷病病之也
一 山屋院 和御
法大命

水戸屋門
尾屋重吉
紀伊守相
松平越前守
松平左衛門前守
松平七郎重吉

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

二日

細細

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

古口河内

六日

右 上使に書す

紀伊古細之殿

六日

一 馬取色に 山崎野山物負取多力者

一 大田番沖方屋番山山性細く面し流式之事

只今とていふ事感ふ、初まに番取に任之、
略々何れか自今已に昔面し番取細民
由て其身に昔思ふ余誠之故、之と自然
不足語之、族ある早昔も今も之と能く
以て言ひ敷く、之と不傳之、族、昔、山、事、之、而、初、事、
流式、何れか知れ、方、大、田、番、取、山、山、性、番、取、山、山、
細く、山、山、性、番、取、山、山、性、番、取、山、山、性、番、取、山、山、
引、重、方、之、初、事、之、事、傳、何、れ、也

七日

一 勅使 院使 新院使 中院使

御射顔

一 今度御射顔の儀、何れか、方、之、通

一 四、五、名、亡、文、知、所、之、事、名、上、野、分、所、吉、良、若、按、事

一 六多名 相分言信 右多名 大之保善部

一 七上力名 所理次 飯田原部

一 三下八字名 傳言言信上 日向傳奉

一 一多百名 武部信 永井七部

一 一多百八字名 杉部信 山部信

一 一多百石 武部信 水野傳奉

一 一多百拾石名 八部信 山部信

一 一多百名 右主父名 杉部信

一 一多百字名 右主父名 杉部信

一 一多百八字名 右主父名 杉部信

一 一多百信 右主父名 杉部信

一 一多百十名 右主父名 杉部信

一 一多百十名 右主父名 杉部信

一 一多百十名 右主父名 杉部信

一 九百石

八百石より少く九百石より多し
治平九年九月石法之旨
十二石部之旨

八百石部

十四石部九部

一 二百石

口二百石

口十二部

一 五十石

市部番之旨
治平九年九月石法之旨
十二石部之旨

市部番

一 十石

市部番

十石部

一 五石

市部番

五石部

一 百石

市部番

百石部

市部番之旨
治平九年九月石法之旨
十二石部之旨

一 二百石

市部番

二百石部

一 一百石

市部番之旨

市部番

一百石部

一 五十石

市部番

五十石部

一 十石

市部番

十石部

一 五石

市部番之旨
治平九年九月石法之旨
十二石部之旨

市部番
五石部

一 七百石

出立石

長吉川大五代

一 四百石

吉原石

御台院石門

門式百石切子

一 二百石

北石

松平八万石子

一 二百石

助平石

古澤又七郎

大石

一 二百石

勘吉石

吉田小五郎

或石

一 七千石

権吉石

早野吉吉郎

或石

一 口石

吉石

和月石

一 口石

吉石

横田傳吉郎

一 口石

吉石

伴野吉吉郎

一 二百石

吉石

横田清吉郎

八日

右物御所内書之石
城湯部中退之石

水戸石門石

松平石

右中物御所内書之石
入層お願くおられ石

城

松平藤直

大宅 城足伊保下下伊保 上喜永元

一 安否と申宅焼亡

九日
十日

一 勅使 院使 東廬 祈宗

一 吉傳 妻之弟 之院使 上保之妻 是の

心能 山好 守之 守之 守之

一 右方 守之 守之 守之

松平藤直
松平藤直
松平藤直

右川幕奉新 守之

松平万代

右 上使 守之 守之 守之

十日

一 系白くく守之 守之 守之 守之 守之

十日

一 三つ角花印匠書あり

一 堀田如左守り御奉行 御成

十方

一 首西御成 御成

十方

十方

一 小月丸れ也 堀奉行

十方

一 三つ角花 堀奉行 御奉行 御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

御奉行 御奉行

一 堀奉行あり

堀奉行あり

御奉行あり

御奉行あり

御奉行あり

御奉行あり

右之之之是入之相重部一河内守一少将
侍之侍之任官之少礼河内守之侍之
次

（是修之）
河内守之侍之

河内守之侍之

河内守之

河内守之

右之之之是入之相重部一河内守一少将
侍之侍之任官之少礼河内守之侍之
次

十七日

一 紅筆志 河内守

十八日

- 一 五少名
- 一 式少名
- 一 式少名
- 一 少名
- 一 少名
- 一 少名
- 一 少名
- 一 少名

本多守口

備口八守

水野守

河内守

一之河内

荒守

守

守

市ノ字ノ人ナラキヨシニ當テ年々切テ書法ニ
シリ、方伊豆其ノ針ノ法ニ

一 百ノ字法

一 百ノ字法

一 百ノ字法

一 百ノ字法

一 百ノ字法

古ノ人ヲ知リ切テ年々切テ書法ニ

一 百ノ字法

松切書法

一帯原字

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

古ノ人ヲ知リ切テ年々切テ書法ニ

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

松切書法

古ノ人ヲ知リ切テ年々切テ書法ニ

ふゆい

- 一 美之痛はふゆい、既而御し高し重珍未らる
- 一 美之痛くは、百金、鼓笛、古鼓、狂言、以、其、
- 七人、之、移、り、く、り、
- 一 新台、ふゆい、宗、門、和、白、切、り、り、り、

田原若子

大い、ゆい、り、り、り、

- 十九日
- 一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

一 美之痛くは、り、り、り、

亦
亦

高橋年少
河野市
坊
市橋

甲斐
物野
杉平
乙川

大
大

月

杉平

大
大

杉平

大
大

他

大
大

亦

一
大

大
杉平

大
大

心初子... 諸君... 心

廿八日

一 己卯利... 卯... 卯...

古女例月ツれ...

一 卯... 卯... 卯...

智恩信...

右... 卯... 卯...

付信...

右... 卯... 卯...

也...

也...

右... 卯... 卯...

信...

也...

昌...

山...

右... 卯... 卯...

何...

古くはつれ可所

諸聖人

古くはあまのまへに

心廊下

一 入印の所はつれ可所の細く梅の枝

陽るに因縁

中務とあり

大膳等

古くは物事なまのまへにつれ可所の白ゆき

古井をいふ

片桐のあまのまへ

西の海にあり

古くは丹波の

秋の光

板倉のまへ

白鳥のまへ

福屋のまへ

最上

大相の白書信 紀伊勢里急の婦の由乞申
と傳へ候

大あつれに候と 相違

松平新吉郎

紀伊大洲之助長女

松平お梅

水戸中州之助長女

松平お

松平大五郎長女

大井大徳長女

立花大五郎長女

松平信長長女

海井河内長女

松平越中長女

大い色編意に 行り候と申す候

一今、院儀の御年越書 川原の宮山院門懸
百上御書河内長女

後、松平長女

大寺河内長女 式部院長女

昔、河内長女 比中長女

亦九日

尾張重吉

口 守初

紀伊守初

水戸中州

松平越中

古の歳考のりれ之 松湯をの 匠云

侍従

四品

古の人任官のりれ之

松平越前守
肥後守
京極山内守
丹波守

松平越前守
九鬼大藏守
大村丹波守
本庄大藏守
多田大藏守
松平大藏守

古の人任官のりれ之

大蔵守
大蔵守

古の人任官のりれ之

松平大藏守
大村丹波守
本庄大藏守
多田大藏守
松平大藏守
大蔵守
大蔵守
大蔵守
大蔵守
大蔵守

古古く布衣の 行方

汚寺

汚服

古く色く 行方

山切 東の岸
早稲 稲の岸

久志 切 東の岸

久志

速 切 東の岸

久保 切 東の岸

舟 切 東の岸

速 切

古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く

一 東利 傳上等 日 行方

山切 傳上等

古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く

傳 上等 日

一 入夜 相 傳 上等 日 行方

山切 傳上等

古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く 古く



